

SVN 分析を用いたエコシステム再構築時における ステークホルダー変更の影響特定

BIPROGY株式会社 丹羽南

エコシステム再構築時の課題

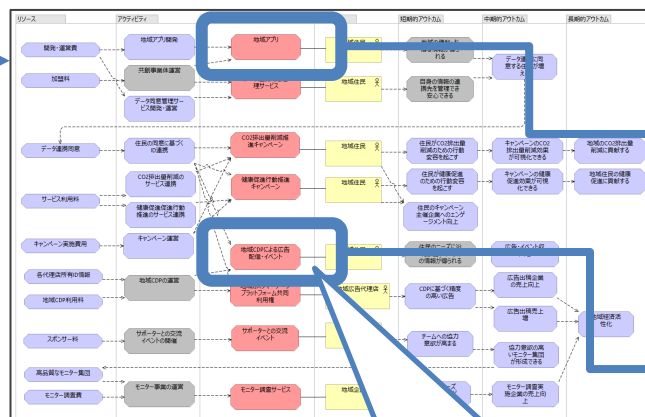
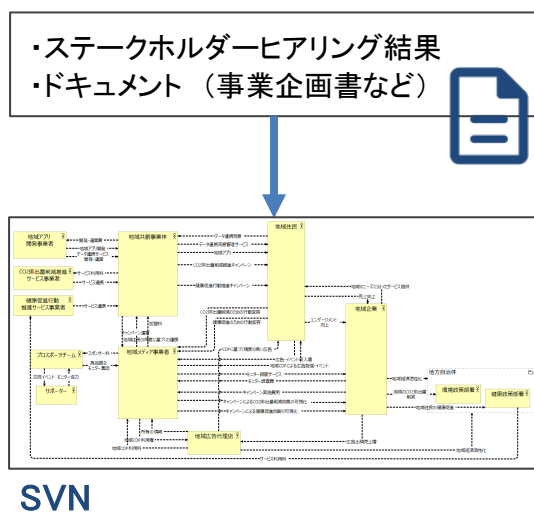
ステークホルダーとの協働のためエコシステムを構築する企業が増えている。エコシステムでは参加するステークホルダーに変更が生じた場合、再構築のため対象のステークホルダーの離脱による**影響を特定する必要**があるが、ステークホルダーの関係は**多重的で複雑**であり影響を受ける価値交換の特定が難しい

影響特定手法の提案

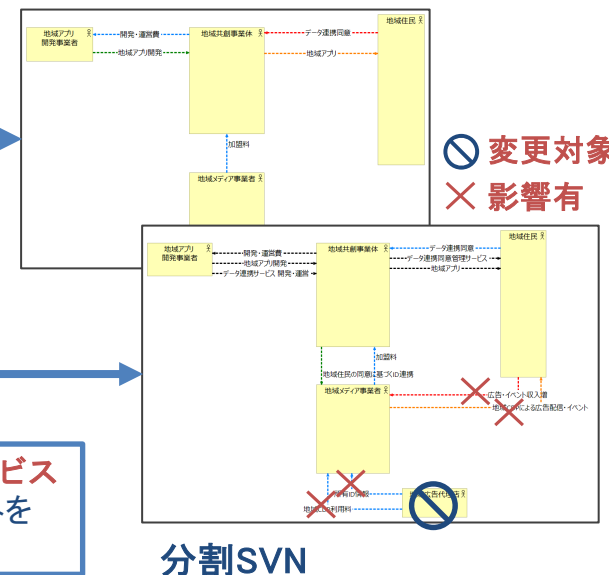
SVN (Stakeholder Value Network) 分析による価値交換モデルと**ロジックモデル**の要素を対応させ、ロジックモデルのアウトプットに焦点をあててSVN を分割する手法を提案
 ➡ SVN の複雑度を下げ**価値交換の間の繋がり**
 (バリューパス)が特定しやすくなる

提案手法

- ①エコシステム内の価値交換をモデル化 ②価値交換の論理関係をモデル化 ③影響を受けるバリューパスの特定



各アウトプット(製品やサービス)
)に繋がりをもつ価値のみを
 抽出しSVN を分割



ユーザー評価結果

被験者2名の影響特定作業の結果を手法適用の有無により比較

特定作業正答率

| 被験者 | 手法適用の有無 | |
|------|---------|-----|
| | 無 | 有 |
| 被験者① | 25% | 75% |
| 被験者② | 50% | 50% |

特定の行いやすさ

| 被験者 | 手法適用の有無 | |
|------|---------|---|
| | 無 | 有 |
| 被験者① | | ○ |
| 被験者② | | ○ |

- ✓ 正答率が上昇した被験者が存在 ✓ 手法が作業の行いやすさに貢献
- 💡 正答率が低いバリューパスがあり、表現方法・特定手順の改良が必要

今後の課題

【表現方法・手順の改良】

分割SVN 上の価値交換とロジックモデルの要素が1対1に対応しない場合に正答率が低かったため、対応関係を明示するように表現方法・特定手順の改良が必要

【影響特定後の再構築手法の開発】

事例分析によるバリューパス再設計パターンの定義などにより影響特定後のエコシステム再構築手法を開発